

平成30年度 3月(H31.3開催) 薬事委員会結果報告

1. 新規採用医薬品(2品目)

No	医薬品名	区分	一般名	製薬会社	規格	薬価	薬効分類	備考
1	ビムパットドライシロップ10%	先	ラコサミド	第一三共	100mg/g	¥386.20	抗てんかん剤	2019.3.11販売開始
2	フェントステープ0.5mg	先	フェンタニル	協和発酵キリン	0.5mg1枚	¥303.80	経皮吸収型持続性疼痛治療剤	2018年12月販売開始

2. 新規院外採用医薬品(9品目)

No	医薬品名	区分	一般名	製薬会社	規格	薬価	薬効分類	備考
1	ニフラン錠75mg	先	プラパロフェン	田辺三菱	75mg1錠	¥10.90	鎮痛・抗炎症・解熱剤	
2	タンボコール錠50mg	先	フレカイド	エーザイ	50mg1錠	¥73.00	頻脈性不整脈治療剤	
3	ヘモナーゼ配合錠	-	プロメライン・トコフェロール酸	ジェイトルフ	1錠	¥13.60	痔疾患治療剤	
4	トピロリック錠40mg	先	トピロキソスタット	富士	40mg1錠	¥36.40	高尿酸血症治療剤	既採用:20mg錠
5	ホスリボン配合錠	先	リン配合剤	ゼリア	100mg1包(リンとして)	¥70.50	経ロリン酸製剤	
6	レキサルティ錠1mg	先	プレクスピプラゾール	大塚	1mg1錠	¥268.90	抗精神病薬	2018.4販売開始
7	ベサコリン散5%	-	ベタネコール	サンノーバ	5%1g	¥13.00	副交感神経亢進剤	
8	グーフイス錠5mg	先	エロピキハット	EAファーマ	5mg1錠	¥105.80	胆汁酸トランスポーター阻害剤	2018.4販売開始
9	トレリーフOD錠25mg	先	ゾニサミド	大日本住友	25mg1錠		パーキンソン病治療薬	トレリーフ錠25mg(販売中止)より切替え

3. 削除 院外採用医薬品(2品目)

No	医薬品名	区分	一般名	製薬会社	薬効	備考
1	トレリーフ錠25mg	先	ゾニサミド	大日本住友	パーキンソン病治療薬	トレリーフOD錠25mgへ切替え、販売中止(経過措置未定)
2	エクセラーゼ配合カプセル	後	サナクターゼ配合剤	Meiji Seika	消化酵素製剤	販売中止(2019.3.31経過措置満了) 同効採用薬:タフマックカプセル、ベリチーム顆粒

4. 医薬品情報室より

重要な添付文書改訂について: DSU(医薬品安全対策情報) No.276-277(2019.1-3)

医薬品一般名	オフロキサシン(経口剤)		624 合成抗菌剤
改訂箇所	改定内容		
[慎重投与]	追記	大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子(マルファン症候群等)を有する患者 大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、観察を十分に行うとともに、腹部、胸部又は背部に痛み等の症状があらわれた場合には直ちに医師の診察を受けるよう患者に指導すること。大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子を有する患者では、必要に応じて画像検査の実施も考慮すること。	
[重要な基本的注意]	追記		

[重大な副作用]	追記	大動脈瘤、大動脈解離：大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。
<院外>採用医薬品：タリビッド錠		

医薬品一般名	メシル酸ガレノキサシン水和物		624 合成抗菌剤
改訂箇所	改定内容		
[慎重投与]	追記	大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子(マルファン症候群等)を有する患者直ちに医師の診察を受けるよう患者に指導すること。大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子を有する患者では、必要に応じて画像検査の実施も考慮すること。	
[重大な副作用]	追記	大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子を有する患者では、必要に応じて画像検査の実施も考慮すること。	
[重大な副作用]	追記	大動脈瘤、大動脈解離：大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。	

<院外>採用医薬品：ジェニナック錠

医薬品一般名	シタフロキサシン水和物		624 合成抗菌剤
改訂箇所	改定内容		
[慎重投与]	追記	大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子(マルファン症候群等)を有する患者	
[重要な基本的注意]	新設	大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、観察を十分に行うとともに、腹部、胸部又は背部に痛み等の症状があらわれた場合には直ちに医師の診察を受けるよう患者に指導すること。大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子を有する患者では、必要に応じて画像検査の実施も考慮すること。	
[重大な副作用]	追記	大動脈瘤、大動脈解離：大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。	

<院外>採用医薬品：グレースビット錠

医薬品一般名	シプロフロキサシン塩酸塩水和物		624 合成抗菌剤
改訂箇所	改定内容		
[慎重投与]	追記	大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子(マルファン症候群等)を有する患者	
[重要な基本的注意]	新設	大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、観察を十分に行うとともに、腹部、胸部又は背部に痛み等の症状があらわれた場合には直ちに医師の診察を受けるよう患者に指導すること。大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子を有する患者では、必要に応じて画像検査の実施も考慮すること。	
[重大な副作用]	追記	大動脈瘤、大動脈解離：大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。	

<院外>採用医薬品：シプロキサン錠

医薬品一般名	トスフロキサシントシル酸塩水和物(経口剤)(小児の用法・用量を有しない製剤)		624 合成抗菌剤
改訂箇所	改定内容		
[慎重投与]	追記	大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子(マルファン症候群等)を有する患者	
[重要な基本的注意]	新設	大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、観察を十分に行うとともに、腹部、胸部又は背部に痛み等の症状があらわれた場合には直ちに医師の診察を受けるよう患者に指導すること。大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子を有する患者では、必要に応じて画像検査の実施も考慮すること。	

[重大な副作用] 追記 大動脈瘤、大動脈解離：大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。  
 <院外>採用医薬品：オゼックス錠

医薬品一般名	トスフロキサシントシル酸塩水和物(経口剤)(小児の用法・用量を有する製剤)		624 合成抗菌剤
改訂箇所	改定内容		
[慎重投与]	追記	大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子(マルファン症候群等)を有する患者 大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、観察を十分に行うとともに、腹部、胸部又は背部に痛み等の症状があらわれた場合には直ちに医師の診察を受けるよう患者に指導すること。大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子を有する患者では、必要に応じて画像検査の実施も考慮すること。	
[重要な基本的注意]	追記		
[重大な副作用]	追記		

<院外>採用医薬品：オゼックス細粒小児用

医薬品一般名	ノルフロキサシン(経口剤)		624 合成抗菌剤
改訂箇所	改定内容		
[慎重投与]	追記	大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子(マルファン症候群等)を有する患者 大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、観察を十分に行うとともに、腹部、胸部又は背部に痛み等の症状があらわれた場合には直ちに医師の診察を受けるよう患者に指導すること。大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子を有する患者では、必要に応じて画像検査の実施も考慮すること。	
[重要な基本的注意]	新設		
[重大な副作用]	追記		

<院外>採用医薬品：バクシダール錠

医薬品一般名	モキシフロキサシン塩酸塩(経口剤)		624 合成抗菌剤
改訂箇所	改定内容		
[慎重投与]	追記	大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子(マルファン症候群等)を有する患者 大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、観察を十分に行うとともに、腹部、胸部又は背部に痛み等の症状があらわれた場合には直ちに医師の診察を受けるよう患者に指導すること。大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子を有する患者では、必要に応じて画像検査の実施も考慮すること。	
[重要な基本的注意]	追記		
[重大な副作用]	追記		

採用医薬品：アベロックス錠

医薬品一般名	レボフロキサシン水和物(経口剤、注射剤)		624 合成抗菌剤
改訂箇所	改定内容		
[慎重投与]	追記	大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子(マルファン症候群等)を有する患者 大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、観察を十分に行うとともに、腹部、胸部又は背部に痛み等の症状があらわれた場合には直ちに医師の診察を受けるよう患者に指導すること。大動脈瘤又は大動脈解離を合併している患者、大動脈瘤又は大動脈解離の既往、家族歴若しくはリスク因子を有する患者では、必要に応じて画像検査の実施も考慮すること。	
[重要な基本的注意]	追記		

[重大な副作用]	追記	大動脈瘤、大動脈解離：大動脈瘤、大動脈解離を引き起こすことがあるので、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。
----------	----	--

<院外>採用医薬品：クラビット錠、採用医薬品：レボフロキサシンOD錠

医薬品一般名	アスナプレビル	625 抗ウイルス剤
改訂箇所	改定内容	
[重要な基本的注意]	追記	急性腎障害等の腎機能障害があらわれることがあるので、定期的に腎機能検査を行うなど、観察を十分に行うこと。
[重大な副作用]	追記	腎機能障害：急性腎障害等の腎機能障害があらわれることがあるので、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと

<院外>採用医薬品：スンベプラカプセル